

発表⑤ 丹南ブロック代表

「伝統文化を受け継ぐ」 鯖江市中央中学校 3年 松本 実夕（まつもと みゆ）

「人の思いを無駄にしない」これは、私が伝統文化から教わったことです。私は小学4年生の頃から人形浄瑠璃をやっています。そして今現在も地区の人形浄瑠璃の1つの座に所属しています。人形浄瑠璃では、3人で1体の人形を動かします。3人の息があわなければ、人が動いているようには見えません。

私が人形浄瑠璃を始めるきっかけとなったのは、近松座という人形浄瑠璃の座の方が小学校にその話をしに来てくださったことです。約5年間伝統文化の1つである人形浄瑠璃にふれ、たくさん感じたことがあります。その中で、私の中にいつでもあるのが「人の思いを無駄にしない」という言葉です。

人形浄瑠璃にある人の思いとはどのようなもののでしょうか。それは、「出来るだけたくさんの人に人形浄瑠璃を知ってもらい、新しい時代に残していく」これが人形浄瑠璃の中にある人の思いだと考えます。私は、人形浄瑠璃をやっている方とたくさん話をするようにしています。ほとんどの方が高齢者というのが今の現状です。ですが、みなさん口をあわせておっしゃいます。

「できれば若い人たちにも興味をもってもらいたい。」

と。この言葉の意味を考えてみると「若い人」という言葉からは、若い人たちに今後永く人形浄瑠璃を受け継いでほしいという期待。「興味」という言葉からは、少しでも人形浄瑠璃に興味をもち、いろんな人に話をしたりネットで広げたりといった、自分たちにできないことをしてもらえないだろうか、という思いがあると思います。私は人形浄瑠璃を受け継いでこられた方のこのような期待を無駄には出来ません。だからこそ、出来るだけたくさんの人に人形浄瑠璃を知ってもらい、新しい時代に残していく、というのが、人形浄瑠璃の中にある人の思いだと考えます。しかし簡単に誰しもが「自分が受け継ぐ。」という言葉は口にすることはできません。だからこそ、その言葉を実現するために私は行動します。私は、中学2年生の秋に大人の人形浄瑠璃グループである近松座に入ることができました。子ども文楽では、演目も2つしかなく、自分の役も決まっていたため、多くを学ぶことはできませんでした。そのためこれから、様々な演目を見て勉強します。いろいろな経験をして、自分の経験値を高めます。たくさんの人に人形浄瑠璃の話をしませう。どんなに馬鹿にされることがあっても諦めません。今言ったことを達成することで、本当に1人前であると認められるかどうかは、分かりません。でも、私は諦めません。

今、大人の人形浄瑠璃には、私以外子どもはいません。しかし、必ず人を増やし、安心して次の世代に交代できるようにすることが、今まで人形浄瑠璃を大切に守ってこられた方々の思いを無駄にしない方法であり、受け継ぐことにつながっていくと考えます。1回ミスをしたら大切な物が失われてしまう、そんな瞬間を私たちが行動出来るかどうかによって、人形浄瑠璃の未来は変わります。私は、あの時自分が行動していれば良かった、と後悔したくはありません。だから、今この瞬間から動き出します。

伝統文化を受け継ぐにあたって必要なことは、気持ちと行動力です。たくさんの方から受け取った思いを絶対に無駄にしないという強い気持ち。人に馬鹿にされても、最後までやりぬくまっすぐな気持ち。自分が良いと思うことをしっかり考え、すぐに行動にうつす力。簡単なことではないけれど、これをする事で人形浄瑠璃を後世へと受け継ぐことができるようになります。

初めは「楽しそうだな。人形を動かしてみたいな。」そんな気持ちではじめた人形浄瑠璃。しかし、今私の思いは大きく変わりました。これから、人形浄瑠璃を受け継いでいくために、さらに精進していきます。